



心の応援団

～朝会の話より～

校長 ほうらい きしこ
寶來 生志子

先週の金曜日は、1月20日でした。私事になりますが、この日は先生にとって大切な日です。先生のお母さんが亡くなった日で、命日といえます。今年で、15年目です。

今日は、みなさんに「心の応援団」のお話をしようと思います。

運動会の時の応援団は、「フレーフレー」って大きな声で応援するよね。「心の応援団」は、「フレーフレー」って大きな声で言いません。

心の中で、あなたがいてくれることを喜んでくれています。そして、あなたのことを信じていて、あなたが幸せになろうとしていることを信じているのです。それが、「心の応援団」です。

数年前、知り合いの先生からこの言葉を教えてもらった時、真っ先に思い浮かんだのは、お母さんの笑顔でした。

みんなには、「心の応援団」はいますか。亡くなった人じゃなくてもいいんですよ。家族とか友達とか地域の方とか先生とか……。思い浮かんだ人。そんなこと思ったこともなかったから、まだ思い浮かばない人。テレビ放送だから、放送室からは見えないけれど、是非、「心の応援団」を増やして行ってほしいと思います。

なぜかという、木に例えてみますね。みんなは毎日すくすく伸びていっているよね。その木が植えられている土台の地面が、「心の応援団」なんです。だから、いやなことやつらいことがあって、倒れそうになった時、「心の応援団」がいないとポキッと折れてしまいます。でも、「心の応援団」がいると、倒れそうになっても、ぐっともちこたえて倒れないのです。

みんなは、友達とけんかしてしまうことがあるよね。例えば、「心の応援団」の友達が一人だけだと、その人とけんかしちゃった時、いやなことやつらいことがあるともちこたえられません。でも、「心の応援団」の友達がもう一人いると、そちらの友達に助けってもらえるよね。だから、「心の応援団」を増やせるといいなと思います。

今日は、先生のお母さんがみんなに「心の応援団」のことを話したらと言ってくれた気がしたのでお話しました。先生は、恩田小の子どもたちや先生たちの「心の応援団」になれたらいいなと思っています。



今年初めて池に張った氷に
目を見張る子どもたち